

岐阜市公立大学法人中期目標

目次

前文

- 第1 中期目標の期間及び教育研究上の基本組織
- 第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標
- 第3 地域貢献、地域社会との連携及びグローバル化に関する目標
- 第4 業務運営の改善及び効率化に関する目標
- 第5 財務内容の改善に関する目標
- 第6 自己点検、評価及び情報提供に関する目標
- 第7 その他業務運営に関する重要目標

前文

岐阜薬科大学は、昭和7年に岐阜薬学専門学校として創設され、昭和24年に新たに大学として発足した。「強く、正しく、明朗に」を建学の精神として掲げ、開学以来、日本の創薬科学研究及び医療の発展に貢献している。

近年、少子高齢化の進行、自然災害や感染症の発生をはじめ、社会課題が多様化、複雑化している中、地域を支える専門人材やグローバルに活躍できる人材の育成、産学官金を含む多様な主体との連携、地域課題への対応など、公立大学に求められる役割はより一層大きなものとなっている。

岐阜市は、こうした公立大学の持つ役割をよりの確に発揮していくため、岐阜薬科大学を令和7年4月に岐阜市公立大学法人へと移行し、自律的で機動的かつ効率的な運営を通じて、より質の高い人材育成、世界に発信する成果創出を含む研究力の一層の強化、そして地域社会への更なる積極的な貢献を目指していくこととした。

このような観点から、次の3項目を基本的な目標に位置づけ、基本的な目標を踏まえて具体的に岐阜市公立大学法人が達成すべき目標を以下のとおり中期目標として定める。

(基本的な目標)

- 1 教育研究の質の向上に向け不断の取組を行い、創薬や育薬をはじめとする研究を推進するとともに、高度な研究に支えられた薬学教育を通じ、人の健康と福祉に貢献しグローバルに活躍できる有為な薬学専門職業人を育成する。
- 2 市立大学として、岐阜市からの支援を受ける大学であり、地域に立脚した大学であるという認識を深めつつ、地域に根ざした人材の育成を行い、地域と連携した教育研究や、教育研

究の成果の地域への還元を推進するとともに、岐阜市のライフサイエンス拠点の形成に寄与し、積極的に地域貢献に取り組む。

- 3 適切なガバナンスを確保するとともに、効率的で透明性の高い運営を旨として、常に業務運営や財務内容の改善に取り組み、将来にわたって持続的に発展可能な法人運営を行う。

第1 中期目標の期間及び教育研究上の基本組織

1 中期目標の期間

中期目標の期間は、令和7年4月1日から令和13年3月31日までの6年間とする。

2 教育研究上の基本組織

岐阜薬科大学に、次のとおり教育研究上の基本組織を置く。

学部	薬学部
研究科	薬学研究科

第2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標

(1) 学部・大学院教育の充実

ア 共通

岐阜薬科大学が掲げてきた「ヒトと環境に優しい薬学（グリーンファーマシー）」の理念の下、広い学術的知識、薬学に関する学理と技術の基盤を養い、人と環境に配慮し、道徳的に優れ、応用力があり社会に貢献できる薬学人材を育成する。

入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）、教育課程編成方針（カリキュラムポリシー）及び学位授与の方針（ディプロマポリシー）に基づいて継続的に岐阜薬科大学の取組を評価、改善し、教育の質向上を図るとともに、必要に応じて適時にこれら3つのポリシーの見直しを行うことを通じて、更なる内部質保証の強化を図る。

イ 学部教育

学部教育では、薬学研究の時間を十分確保し、臨床研究力と基礎研究力の向上意欲を持ち、倫理観、広い学術知識と臨床に係る実践的な能力に加え、高い課題発見・解決能力を持つ自立した人材であって、医療関連分野、製薬分野、行政分野等の広い分野で活躍できるファーマシスト・サイエンティスト¹としての基礎的能力を持つ人材を育成する。

¹「臨床に従事しながら研究ができる、あるいは臨床の経験を生かして他の研究職域で活躍する薬剤師」（日本の展望—学術からの提言 2010 報告 薬学分野の展望（平成22年4月5日、日本学術会議薬学委員会）

ウ 大学院教育

大学院教育では、グリーンファーマシーの実践を基盤として、自立した創造的研究活動遂行能力と豊かな学識とともに優れた人格を身に付け、薬と健康や医療の安全確保のための高度な研究を行い、薬学・科学の発展や地域医療と地域住民の健康の増進に向けて、教育、研究、高度医療等の分野で指導的役割を担うファーマシスト・サイエンティストを育成する。

(2) 教育環境の充実

PBL/SGD²、早期体験学習、研究室での特別実習等を通じて、課題発見・解決能力、プレゼンテーション能力及びコミュニケーション能力等を学生に身に付けさせることができるよう、教育環境の充実を図る。

(3) 教職員の教育能力・教育支援能力の向上

質の高い教育を提供するため、FD/SD³の適切な実施等により、教職員の教育能力・教育支援能力の向上を図る。

(4)アントレプレナーシップ（起業家精神）教育の推進

アントレプレナーシップ（起業家精神）教育を通じ、問題解決能力の錬磨と行動力の向上に寄与し、社会課題の解決に挑むマインドを持った薬剤師の育成を目指すとともに、組織の革新や活性化を実現できる人材を輩出するため、産学官金連携や高大連携を通じた起業家精神の育成に注力する。

(5) 入学者受入れを見据えた薬学への関心の喚起

優秀な学生の岐阜薬科大学への受入れを見据え、高等学校や中学校の生徒、教職員等に対して薬学の意義や魅力を伝える活動を行うことを通じて、学習意欲や目的意識の高い入学志願者の増加につなげる。

2 研究に関する目標

(1) 研究力の向上

² Problem-Based Learning (PBL) 課題演習型学習/Small Group Discussion (SGD) 少人数制のグループ討論

³ Faculty Development (FD) 大学の授業の内容・方法を改善するための組織的な研修及び研究/Staff Development (SD) 大学の教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、教職員に必要な知識・技能を習得させ、能力・資質を向上させるための研修等の取組

薬学分野における地域の研究拠点として、URA⁴の体制強化等を通じた研究環境の整備も図りつつ、より健康な社会の実現に貢献する観点から、世界に発信する最先端研究の成果創出を目指し、基礎薬学、臨床薬学を含む薬学の幅広い分野において研究力の向上を図る。

研究分野のうち、特に新薬開発においては、岐阜薬科大学が持つ創薬研究の高い実績を生かし、挑戦的な研究を推進する。

(2) 地域住民の健康と生活の質向上への貢献

地域に根ざしたコホート研究⁵、薬草等の伝承薬の研究、規制薬物の蔓延防止や健康リスクのある化学物質の拡散防止等の地域を支える研究を通じ、人々が健康かつ安全に暮らせる地域社会の実現に寄与し、地域住民の健康と生活の質（QOL: Quality Of Life）の向上に貢献する。

(3) 岐阜市の活性化と地域産業の発展への支援

企業との共同研究や岐阜薬科大学の知見を生かした企業への助言等により、機能性の発見による既存の地産品への新たな価値の付与から新製品の開発まで、産業界における多様な研究を支援するとともに、兼職・兼業による教員の企業への派遣や企業研究者の研究員としての受入れ等を通じて、研究開発マインドを持った産業界の人材育成を支援し、地域の活性化と地域産業の発展に貢献する。

(4) 倫理・利益相反に関する規範遵守

研究に関する倫理及び利益相反について適切なマネジメントを行うとともに、倫理及び利益相反に関する管理能力を身に付けた研究者の育成を図る。

(5) 外部資金の獲得等による研究基盤強化

日本及び世界をリードする質の高い研究成果の創出により、更なる外部資金の獲得に至る好循環を形成することができるよう、外部資金の積極的な獲得を進めるとともに機動的な判断の下で研究費を戦略的に配分し、研究に関わる人材及び設備への投資を含む研究基盤強化を図る。

(6) 研究成果の活用と積極的な情報発信

研究成果の知的財産としての活用や、地域社会への還元を促進するとともに、成果の普及や岐阜薬科大学のブランド力向上の観点にも留意しつつ、国内外に積極的に情報発信する。

知的財産の管理・活用のための規程その他の体制を整備し、組織的に知的財産の戦略的管

⁴ University Research Administrator (URA) 研究者とともに研究活動の企画・マネジメントや研究成果活用促進を行い、研究活動の活性化や研究開発マネジメントの強化を支援する人材

⁵ 特定の集団に対し、健康状態等を長期的に追跡して調査する研究

理・活用を推進する。

(7) 他研究機関等との連携

研究力向上のため、学会での積極的な成果発表や共同研究等を通じてネットワーク形成を促進し、国内外の大学・研究機関及び企業や近隣地域の病院、薬局等との機関間・研究者間の連携を継続、強化するとともに、新たな連携の創出を追求する。

岐阜薬科大学の研究設備のうち、汎用性の高いものについて対価を含む適切な管理の下に他機関・企業との共用を促進するとともに、必要に応じて他機関・企業の設備を利用するなど、相互の連携を通じた研究環境の充実を図る。

3 学生への支援に関する目標

学生が健康で充実した学生生活を送ることができるよう、学習環境や生活支援の充実を図るとともに、就職、進学をはじめ、自身の適性に応じた進路選択を行うことができるような支援を推進する。

学生がハラスメント行為その他あらゆる人権侵害行為にさらされることのない教育研究環境を確保するとともに、学生自身が人権尊重や法令遵守に対する意識向上を図ることができるよう啓発を行う。

障がいその他の事情により合理的な配慮が必要な学生に対し、適切な対応を行う。

第3 地域貢献、地域社会との連携及びグローバル化に関する目標

1 地域貢献及び地域社会との連携に関する目標

(1) 地域課題の解決等への貢献

岐阜薬科大学の有する教育研究成果及び人的資源等を最大限に活用し、地域社会における多様な主体との連携を一層深め、地域社会の持続的発展と、岐阜市をはじめとする地域の多様な課題の解決に寄与する。

(2) 地域社会の医療・保健・福祉への貢献

薬剤師の人材輩出を通じて地域における病院等での薬剤師人材確保に貢献することができるよう、日常から地域の企業や機関との連携を図るとともに、地域の医療サービスに直結する薬剤師が継続的に活動することができるよう、社会で活躍する薬剤師を対象に地域医療、在宅医療、学校薬剤師業務及び薬事行政に係る卒後教育を実施し、地域の薬剤師のキャリア形成を促進する。

地域住民を対象とする公開講座等を実施し、岐阜薬科大学の知識、人材、ノウハウを広く一般に提供する。

(3) 地域の産学官金連携によるイノベーション創出

地域産業の発展や雇用の創出に貢献することができる大学を目指し、岐阜薬科大学のシーズと産業界のニーズの融合や、地方創生に向けた産学官金連携の推進を通じ、研究成果を産業界へいち早く還元し、海外展開も視野に入れた大学発ベンチャーの創設を含むイノベーションの創出、エコシステムの形成に寄与するとともに、岐阜市のライフサイエンス拠点の形成に貢献する。

2 グローバル化に関する目標

(1) グローバルに活躍できる人材の育成

語学力のみならず、相互理解の力や新しい価値を創造する力、社会貢献に対する高い意識を持った人材を育成し、グローバルに活躍できる薬剤師及び薬学研究者の育成を行う。

(2) 海外の大学・研究機関との学生・教員交流

海外の大学・研究機関における教員の短期・長期在外研究の実施や、各国からの研究者の受入れ、大学間協定締結校との学生交流等を積極的に実施し、より密接な人的交流を伴う国際交流を充実させる。

(3) 外国人留学生の受入れの推進

多様な背景を持つ留学生と互いに研鑽する環境の実現に向け、グローバル化に対応した教育研究環境の整備等を通じ、留学生の受入れを推進する。

第4 業務運営の改善及び効率化に関する目標

1 法人運営の強化に関する目標

(1) 適切なガバナンスを確保するための組織体制の整備及び運用

適切なガバナンスが確保されるよう、理事長のリーダーシップの下で組織の運営・連携体制の整備と適時の見直しを行うとともに、必要に応じて社会の変化等を捉えた機動的な意思決定を行うこと等を通じ、岐阜薬科大学の教育研究機能が適切に発揮される法人組織運営を行う。

(2) 弾力的かつ適正な人事制度の構築及び運用

多様な採用形態、柔軟な勤務形態等の弾力的な人事制度を構築するとともに、公正かつ適切な人事及び評価を行い、効果的な人事運用を図る。

教員の起業に関わる規程を整備し、教員が地域活性化のために活動できる環境を整えるとともに、当該活動を促進し、支援する。

(3) 人材の育成及びダイバーシティの推進を含む労働環境の整備

有為な人材の確保に努めるとともに、高度な専門性を持つ職員の育成について、プロパー職員の段階的な採用も含めて取り組む。

性別や国籍、障がいの有無にとらわれない多様な人材の活躍を目指し、ダイバーシティを推進するとともに、全ての教職員の活躍が可能となり業務への意欲及び生産性の向上につながる労働環境の整備及び継続的な改善を行う。

(4) コンプライアンスの強化

役員及び教職員の法令遵守をはじめとするコンプライアンスに対する意識の徹底、情報漏洩等の業務遂行上のリスク管理の強化や監査の効果的な実施により、適正な教育研究活動及び法人運営を行う。

役員及び教職員の人権尊重に対する意識向上を図るとともに、ハラスメント行為その他あらゆる人権侵害行為を防止し、発生後の適正な対応を確保するための体制を構築する。

2 業務の効率化・高度化に関する目標

法人業務全般について不断の点検、見直しを行い、効率的かつ合理的な業務運営を推進する。

業務の効率化や高度化によって教育及び研究を推進・活性化するため、法人全体で DX⁶を推進する。

第5 財務内容の改善に関する目標

1 自己収入の確保に関する目標

授業料収入のほか、科学研究費補助金をはじめとする競争的資金や産学官金連携による共同研究費・受託研究費、寄附金等の外部資金の獲得等を行い、積極的な自己収入の確保に努める。

2 予算の効果的・効率的かつ適正な執行に関する目標

財務状況の継続的な検証・分析に基づく適切な予算管理を行うとともに、不可欠な事業への投資と必要性の低い経費の合理化を戦略的に行うなど、効果的・効率的かつ適正な予算執行に努め、自律的かつ安定的な経営を確保する。

第6 自己点検、評価及び情報提供に関する目標

1 自己点検及び第三者機関による評価の充実に関する目標

⁶ Digital Transformation (DX) 情報技術を活用して業務プロセスや組織文化を変革し、ビジネスや生活の質を高めていくこと

教学 IR⁷による分析、定期的に実施する自己点検・評価、第三者機関による外部評価等の結果を活用し、教育研究及び業務運営の改善と充実を図る。

2 情報の提供・発信による透明性確保に関する目標

社会に対する説明責任を果たすため、積極的かつ迅速な情報の提供・発信を推進し、法人運営の透明性を確保する。

第7 その他業務運営に関する重要目標

1 施設・設備の整備及び有効活用に関する目標

既存の施設・設備について、長寿命化の基本方針に従い、中長期的な計画の下、適切な整備及び維持管理を推進するとともに、大学発ベンチャーへの支援等を含め、その有効活用に努める。

岐阜薬科大学新キャンパス整備事業に関し、整備主体である岐阜市の求めに応じて事業に寄与する取組を行い、整備推進に貢献する。

2 危機管理及び安全管理に関する目標

(1) 危機管理の徹底

事故、災害等の未然防止と、事故、災害等が発生した場合に適切に対処できるような体制整備を行い、危機管理を徹底する。

個人情報、法人情報等を適切かつ厳格に管理するため、法人の情報セキュリティポリシーを整備し、情報セキュリティ対策の充実・強化に取り組む。

(2) 安全管理の徹底

学生及び教職員の安全と健康を確保するとともに、快適な修学・職場環境の形成を促進する。

⁷ 教学 Institutional Research (教学 IR) 大学内で保有する教学に関するデータの調査及び分析を行う機能又は部門